

## しのばず自然観察会より 2023-07 2023.07.02

### 2023年7月の活動 不忍池 定点観察



集合：2023年7月9日(日)

午前10時 不忍池 蓮池南西端

緑の小旗あり(野外ステージ西側、  
湯島天神下交差点寄り)

今回は雨天中止

持物：筆記用具、双眼鏡、雨具、マスク  
(敷物、昼食、飲み物、日傘)

解散は午後1時頃ボート池畔または藤棚

参加費不要 非会員の参加も歓迎

3年連続で、今年も6月12日前後に不忍池のハスが咲き始めました。花を見るなら7月中がお勧めです。しのばず自然観察会が発足してから20年ほどの間は、ハスの花見を9月に企画したこともありましたが、それも今は昔、このごろは8月のハス見も盛りが過ぎて気が抜けたようなことも多くなってきました。

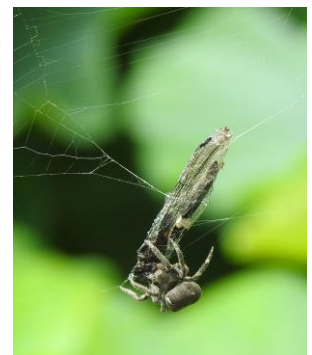
外来の動植物が目立つ不忍池で、今年特に目立つのが10年余前に持ち込まれたハンゲショウです。当初のボート池内の大きな鉢植えから逸脱し、蓮池にも、またボート池に岸の上にも広がっています。

### 2023年 6月11日の不忍池観察記録は雨天のため中止しました

6月の定例観察会は11日(日)の予定でしたが、夜来の雨のため中止になりました。

13日には、野鳥繁殖調査(次ページ参照)で小川潔が不忍池をまわり、個体数と繁殖状況を調査しました。その際、動物園池の仮設橋のあたりで、子どもの頃に「普通種」だったのにこのごろ会えなくなったオニグモと再会しました。コシアキトンボをとらえているところでした。

5月の観察会で預かった、栗林菊夫さんが描いた絵本2冊「きんいろのおたまじゃくし」(こどものせかい5月号、至光社刊)と「鳥で遊ぶ絵問・」(どうぶつ社刊)の残部を7月の観察会に持っていきます。



コシアキトンボを  
捕らえるオニグモ

## 市民による繁殖調査が反映！バンとゴイサギが狩猟鳥から解除になる

国や自治体がやらなくなったため、民間団体バードリサーチがまとめ役になって、市民のボランティアによる野鳥の繁殖調査が2017年に全国的に行われ、不忍池と谷中霊園・上野の山を小川潔が担当しました。環境省では以前の調査データとの照合などを経て見直し作業の結果、2022年9月15日より、特に生息地・個体数の減少が著しいバンとゴイサギが狩猟鳥から解除（狩猟対象にしない）されました。

これまでも、大正7年にできた鳥獣保護法（現行の鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律）により、日本の法律では珍しく、野鳥や野生哺乳類では指定した種類以外はすべて、狩猟対象にしない（捕ってはいけない）ことになっていました。ほかの一般の法律だとこれとは逆で、指定したもの（こと）以外はすべて自由勝手という仕組みになっています。それでもこれまでは、カモ類のほかにバン、ゴイサギも狩猟対象に指定されていました。

不忍池では、バンもゴイサギも確認されていますが、1990年代～2000年代と比較すると減少し、バンの繁殖は確認できなくなっています。

なお、東京では野鳥の会東京の研究部が核になって、2022年、23年には1月に越冬鳥調査、5月および6月に繁殖調査が行われ、不忍池の調査をしのばず自然観察会の小川潔が担当しました。2017年調査と比べ、残念ながらオオヨシキリに出会えなくなりました。



左：バンの成鳥  
右：アシの根元で  
営巣（1997年4月）



下：ゴイサギ  
左は成鳥、右は若鳥  
（写真はすべて  
不忍池にて）

しのばず自然観察会 事務局 〒110-0001 台東区谷中3-1-9 小川潔方  
1975年創立 電話 03-3828-8775 URL: <http://sinobazu.extrem.ne.jp>  
郵便振替 00100-8-84609 しのばず自然観察会 年会費 2,000円

\*\*2022年以前の会費未納の方もお忘れなく！退会の場合は早めに葉書で事務局へ\*\*